会　議　名	第２回港区幼稚園教育振興検討会
開催日時	令和７年４月１６日（水）１７時～１８時３０分
開催場所	港区役所９階　９１４・９１５会議室
委　　員	Ａ委員（委員長）、Ｂ委員（副委員長）、Ｃ委員、Ｄ委員、Ｅ委員、Ｆ委員、Ｇ委員、Ｈ委員、Ｉ委員、Ｊ委員、Ｋ委員、Ｌ委員
事　務　局	教育推進部長 教育推進部教育長室長 教育推進部教育長室教育推進担当係長 学校教育部学務課長 学校教育部学務課学校計画担当係長
会議次第	１　幼児教育の基本的な考え方及び国の有識者検討会の概要について ２　幼稚園教育の振興に向けた意見の共有 ３　その他
配布資料	資料１　港区幼稚園教育振興検討会委員名簿 資料２　港区幼稚園教育振興検討会設置要綱 資料３　第１回検討会で出された意見について 資料４　幼児教育において育みたい資質・能力の整理 資料５　今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会最終報告＜概要＞

主要な意見等	
Ａ委員	次第の議題に入る前に、まず、本検討会の今後の進行等について確認させていただく。資料３にあるように、前回の会議では、各委員、色々なご意見をお持ちだということが分かったので、本日は個別の議題の議論に入る前に、まずは、各委員の立場から、幼稚園や幼児教育に関して大事だと考えていることや、今後向上していくべきと考える取組等、総論的な内容についてご意見を伺い、共有していきたい。前回各委員から示された「地域における幼稚園の役割」や「預かり保育」といったテーマについては、次回以降、各論の課題として個別に議論する。なお、私立幼稚園の代表者からご意見のあった「教員の確保」については、本検討会ではなく、公私立幼稚園の代表者と事務局職員でより実務的な議論を行う「公私立幼稚園連絡協議会」で検討していく。

	１　幼児教育の基本的な考え方及び国の有識者検討会の概要について
Ａ委員	次第の「2」で各委員からご意見を伺っていきたいと思うが、その前に、まず、国の有識者検討会にも委員として参画されていたＢ委員から、国が整理している幼児教育の基本的な考え方や、有識者検討会で検討された事項の概要等についてお話をいただき、今後の検討のための理解を深め、共有したい。
Ｂ委員	○資料 4・5 を用い、幼児教育において大切にすべき資質・能力の育成について、また、国の有識者検討会における議論の概要について、Ｂ委員から説明をし、内容を全体で共有。
Ｃ委員	資料 4 の説明については異論ない。資料 5 については意見がある。50 代から 60 代にかけて中教審の委員を 10 年ほど務めた。先ほどの有識者検討会はその下部組織として位置づけられ、このような検討がなされたと思う。現代的諸課題に応じて検討すべき事項がまとめられていることはいいと思うが、冒頭にＩＣＴの活用という項目がきて検討されることには異論がある。幼稚園は環境を通しての教育。今その環境自体に問題が生じており、その課題に対してどうするべきかがないといけない。
Ｂ委員	ＩＣＴの活用が先に挙げられることについてはご意見があるところかと思う。環境として行う教育についてはもちろん議論されることだが、環境の１つとしてのＩＣＴ、幼児期にふさわしいＩＣＴ環境の整備ということで有識者検討会の中でも話題に上がっていたと記憶している。
Ａ委員	Ｃ委員のご意見はもっともだと思う。項目の順番は国で考えていると思うが、環境を通しての教育を大切にし、その環境をどのように整えていくかが大切。現代を生きる子どもはパソコンやスマートフォンが生活に身近にある。すでにそうした機器を操作する能力を持っている子どもたちが入園してきたときに、園としてＩＣＴの活用に触れずにいられるかどうかという意味で、最初の項目となったのではと推察する。
	２　幼稚園教育の振興に向けた意見の共有
Ｇ委員	保護者同士の会話の中で、幼稚園の三種の神器のことが話題になった。私は人材、教育理念、環境ではないかと考えたが、今の三種の神器は園バス、給食、延長保育だと言われ、少し寂しい気持ちになった。いまの幼稚園を選んだ理由は、「親も一緒に学び育ちあうこと」が大切と考えるから。日頃の小さな出来事を先生方がメモに取ってくれている、また自分の意志の伝え方がうまくいかない幼児同士がコミュニケーションをとっていけるよう、間に入ってくれる。フィードバックは日常にある。そこに価値を感じており、誇れる部分だと思っている。さまざまな会議に出席する中で、幼稚園の園児数が減っていること、保育者が少ないこと、特別な配慮を要する子どもが増えていることなど幼稚園を取り巻く環境の変化について聞いている。また、保護者層の変化も感じており、こうした流れに合わせて幼稚園も変わって行かなきゃいけないのかなとも思う。幼稚園の特色がそれぞれにあり、区内私立幼稚園 14 園が世界でい

	ちばんで、素晴らしい保育をしていると思う。こうした現状を打開するために行政からの力添えをいただけると、各園のいいところをさらに出していけるのではないかと思う。
H委員	幼児期の育ちで大切なのは、遊びの中での学びだと考えている。遊びの中で実体験をとおして心が動く経験する、多様な人と関わることで将来の自分の考え方、仕事の選び方などにつながっていくのだと思う。遊びを追求する、主体的に取り組み、主体的に考えられる環境を幼稚園が整えることが大切。各幼稚園とも保育の内容としては素晴らしいことをしてくださっている。しかし、通いたいと思ったときに通えない、ハードルが高いと感じている家庭が多いのも事実。産後ケアのために家庭訪問しており、昨年度 1 年間で 50 の家庭とお話しする機会があったが、その中で専業主婦は 3 人だった。ほとんどの親が育休や産休をとっているなかで、幼稚園を勧めても、預かりの時間が短い、平日日中に行われる保護者会に出席できないなど、生活スタイルを考えるとハードルが高い状況。受け皿を広げるようにすれば、通える家庭も増えると思う。幼稚園に子どもを通わせている家庭でも「なぜ幼稚園がいいのか」について深く考えてないケースもある。自分は子どもを 4 人育て仕事をしながら幼稚園に通わせているが、「なぜそんなに苦労して幼稚園に入れたいのか」と聞かれる。きめ細かな保育がとてもいいことだと説明するが、あまり認識されていないと感じる。育休中の親は子どもを保育園に入れる選択肢しかなく、入れたらわざわざ転園することは考えていない。次に考えるのは小学校入学。幼児期の育ちとして、なぜ遊びが大事なのかということが広まっていない。英語教育や学習面の強化を大切と考える家庭も多い。遊びが大切だということを広めていってほしい。ＰＴＡ連合会主催で未就園児を対象とした講演会を実施した。港区のお母さんは学習意欲が高く、子どもたちにいい教育をさせたいと考えていることが多い。講演会にもたくさんの来場があり、いい機会となった。保護者が通わせる施設を選択する中で、預かり保育の時間が短いことはネックになってくると思う。幼児期にどういった育ちをするべきか、何が大切なのかをもっと港区で周知していってほしい。子どもが減っている分、保育園にも空きが生じている。近隣の幼稚園と保育園が連携して、教育時間は幼稚園、預かりは保育園でなど、施設間で垣根を超えて連携していければいいのではと考えている。
Ｉ委員	親として、子どもにはいろいろな経験を小さいころからしてほしいと思っている。さまざまな制限があるかもしれないが、子どもには最大限の経験を与えたい。そうした思いがあったから、2 歳まで通っていた保育園から現在通っている幼稚園に転園させた。子どもにはたくさんのお友達に囲まれながらさまざまな経験をしてほしい。保育園の規模だと限界があると思い、幼稚園に転園させた。子どもには遊びを通じていろいろなことを学んでほしいと思っている、そういう経験ができるところに子どもを通わせたいという気持ちがある。子どもを通わせている幼稚園は先ほどお話しにあった現代の三種の神器が揃っている幼稚園。保護者の間でも、それが幼稚園を選んだ理由だという話をしている。預かり保育が充実しているかなどは、働いている親としては重視してしまうが、ホームページやブログなどを見てどの幼稚園がいいか検討する中で、今までお話しにあったような幼稚園の良さがあまり伝わってこなかったように感じる。ただ、今は子どもを幼稚園に入れてよかったと思っている。自分の中で言語化

	して人に伝えられるようなレベルではないが、幼稚園の良さを幼稚園、区から保護者へ積極的に伝えていけるといいのではと思う。
Ｊ委員	港区の幼稚園をよりよくするために必要だと考えることは3つ。1つめは配布物とＩＣＴの活用について。年間予定表は有給の調整に関わるため、3月中旬までの配布をお願いしたい。園だよりのレイアウトについては保護者から意見があり、全園統一にしたほうがよいと考えている。コドモンの機能活用の声も上がっている。2つめは教職員の増員について。園に行ったときに教員の数が足りていないと感じることがあった。現場の声を踏まえることで、行政で見落としがちな課題に気づけるのでは。清家区長の掲げる「誰ひとり取り残さない」という理念にもつながると思う。3つめは港区の幼稚園の魅力をＰＲするため必要な取組について。現在子どもを通わせている幼稚園の保護者の中で、区立幼稚園全体を対象としたアンケートを実施する準備をしている。アンケート結果をこの検討会でも共有できればと考えている。
Ｋ委員	幼稚園では保護者からのアンケートなどでも高い評価をいただくことができている。その背景には、教員の皆さんの日々の努力の積み重ねや長年の研究の成果があると思っている。ＮＴの配置や東京都と連携した探究活動も実施しているが、園児数の減少が続いており、園児の確保が課題と考えている。園児数を確保するためには、幼稚園の良さをしっかりと伝えていくことが大切だと考えている。先日訪れた幼稚園にも、豊かな園庭や果物がなる木があり、四季折々の移り変わりを感じながらたくさんの経験ができる環境が整えられている。幼稚園の良さを具体的に伝えるために、効果的なＰＲをしていくことが重要。ＳＮＳなども活用しているが、まだ足りていないと反省している。ＰＲ方法、幼稚園に何が求められているかなど、さまざまな意見を聞きながら考えていきたい。
Ｃ委員	皆さんからの意見を嬉しい気持ちで聞いていた。子どもたちを巡る環境が年々劣化していることが現代的な課題として最も重要と考えている。保育園も元来は幼稚園のような機能をしっかり持つということになっており、保育園に通う 3～5 歳児は、幼稚園教育要領に準じた幼児教育を実施することになっている。しかし、区内の保育園の9割以上が園庭を持っていない。これでは遊びを通じた学びを十分に行える環境が整っているとは言えない。本当は保育園が教育機能を身に付けていくことがいいと考える。人口の急減も非常に大きな問題。昨年の出生数は 70 万人に迫る勢いで減少しており、自分が生まれた昭和 22 年は出生数が 260 万人を超えており、いまはその 1/3 程度にまでなっている。こうした傾向を考えても、いまは教育施設が多すぎる。規模を縮小しても、子ども主体の環境を整えていくことが幼稚園に求められていることだと考えている。区内の公私立幼稚園はこうした環境が整っている。幼稚園で生活する中で、季節の移り変わりをしっかりと感じることができる。園庭には花が豊かに咲き、実のなる木がたくさんある。年長の子どもが収穫した果物などを年少の子どもにふるまうなどもできる。園庭にビオトープを作ればたくさんの生物がくる。草花を増やせば蝶々がたくさん飛んでくる。池を作るとオタマジャクシがたくさん生まれる。子どもたちは視点が低いので、そうした変化にすぐ気付く。ほかの方の意見にもあったが、教員配置の不足は同感。幼稚園は 1 学級 35 人の配置基準となっており、教員が不足

	するに決まっている。学級定員を減らすべきだと思う。副園長や主幹教諭を必置にするなど、教員配置を増やすことで豊かな環境を作り出すことになる。港区ではインターナショナルスクールなどの認可外保育施設へ通う保護者に対して 9 万円を超える補助金を出している。認可を受けている幼稚園に通わせる保護者は子ども 1 人に対し 3 万円程度。どういった法的根拠があって出しているのか。大変おかしなことだと思っている。
Ｄ委員	誰もが予測できない時代の中、子どもたちは今後 100 年近く生きていくことになる。そうした社会の中で 100 年を生き抜く力を身につけなければならない。まずいちばん大切なのは自分を信じられること。そして幼稚園で出会った友達や大人を信じられると感じてもらうことが、幼稚園でいちばん経験してほしいこと。幼稚園教育において大切にすべき視点でいうと、子どもたちの生活の質を上げていくことが重要。具体的には子どもの主体的な判断を大切にしており、遊びでもなんでも「やりたい」ということをやらせてあげるようにしている。それをサポートする親、教員がいて、友達とも出会っていく。自分の意見を言葉にして相手に伝えること、相手の意見に共感していくことがとても大事。港区の幼稚園をよりよくするために必要なこととしては、思い切って各幼稚園の定員を減らすということだと考えている。1 学級 35 人という基準は常識では考え難い数。欧米の幼稚園では 1 クラス 10～15 人程度。1 クラスの数を減らして個別最適な教育と協働的な教育の一体性を試行錯誤し、バランスをとりながらやっていくことが大切。港区の財政力なら実現できるのではないか。日本や世界に先立って取り組んでほしい。喫緊の課題は良質な教員の確保。よりよい教員を確保していくことが短期的な目標でもある。そのために何ができるかを皆さんと一緒に考えたい。幼稚園の魅力をＰＲするために必要なこととしては、20～30 代に影響力があると言われているインスタグラムなどを活用し、各幼稚園の短い動画を作成して流すなどもいいのかなと考えている。長期的に見ると「子どもの声を代表して区や社会に届ける」ということが大切。保護者の声は聴くことができるが、子どもが願っていることが何かを考えることが大切ではないかと思う。
Ｅ委員	皆様の話を本当にその通りだと思って聞いていた。幼児期において大切にすべき視点は、遊びの中で育つ力。特に心が育つということが大切。そのためには、子どもが遊びこめる環境づくりが重要。幼稚園の魅力でもある園庭があること、その園庭で四季を感じながら五感を使っていろんなことを自分で感じることがとても大切だと思う。心の開放や発散というのは、公園では難しく、知っている友達や先生がいるからこそできること。そういった意味でも園庭は重要であり、園庭の魅力を発信していくことがいいのではと思う。公私立幼稚園の理念・教育はしっかりしたものだと思う。教員の質の向上、確保が重要で、確保については苦しい思いをしている。補助があると幼稚園教諭を目指す人にとってもありがたいこと。補助の多い保育園のほうに人材が流れてしまうというのはとても寂しいことなので、幼稚園教員を目指す人が増えるようにしてもらいたい。時々園を見学する方がいらっしゃって、その保護者からは、幼稚園のいいところは園庭があって思いっきり遊べるところだと聞く。また、小学校受験の前にたくさん遊ばせたいという声もある。ぜひ幼稚園のいいところを思い切りＰＲしていきたいのだが効果的な方法がよくわからない。どのようにしたらいいか知恵を

	お借りしたい。教員の確保、園児の確保はこれから大変な時代になると思うので、その辺りをしっかり考えていけたらと思っている。
Ｆ委員	保護者の皆様や私立幼稚園の先生方のお話を、子どもたちがのびのびと遊びながら学んでいく姿を思い浮かべながら聞かせていただいた。恵まれた環境を生かし、公私立幼稚園それぞれが積み重ねた歴史のなかで充実した保育を実施していると改めて感じた。Ｂ委員から、幼稚園で身に付けるべき資質・能力についての貴重なお話があったが、こうした恵まれた環境の中で実際に保育をしていくなかで、本当に実現できているのか、本当に足りていないことはないか、というのを日々考えながら取り組んでいる。幼稚園や教員はもちろんそのように懸命に日々取り組んでいるが、幼稚園だけでできるわけでなく、保護者の方が園の教育をよく理解して一緒に子どもを育てていくという環境づくりが大切。また、地域の方々にも支えられているという部分も大きく、子どもたちが地域の方に見守られながら地域の中で育つということも大切。こんなに素晴らしく、素敵な幼稚園の魅力を理解してもらいたいと思っている。幼児教育の重要性を理解していない保護者の方もいるというお話しがあったが、幼児教育が重要だということをもっと知ってもらうことが大切で、幼稚園を選ぶかどうか、ということ以前に、幼児教育のどんなところが大切なのかを保護者の方をはじめ広く理解してもらえればと思っている。子どもがいる人はもちろん、それ以外の方を含め区民全体に幼児教育の重要性を知ってもらうことができたらいいなと思う。１園での取組ではなく、区と協力して全体として実現していければよい。幼児教育の重要性とは別の保護者のニーズ、条件的な事が子どもをどこに通わせるかを選択するうえで全面に出るということがあるかと思う。。保護者の方々が幼稚園や幼児教育をどんな風に思っているかを知ることができるといいと思う。区内に多くの教育・保育施設がある中で、実際にどういったことが求められ、選ぶ理由となっているのか、いろいろな考えを持った方の意見を集め、どんな考えを持っている人が多いのか、区や幼稚園として足りていない部分があるのかなどを知ったうえで考えていけたら、具体的な取組も実現しやすいのではと思う。
Ｌ委員	幼児期に大事なことをもっと広く発信するべきという皆様のご意見を聞き、もっと取り組まなければ思いつつ、区は情報発信が苦手な部分もあり、うまく伝わらない苦しさがある。保護者の方から卒園するときに、幼稚園を選んでよかったと言っていただくことがあるが、実際に子どもを通わせて実感してもらっている部分であり、体験しないと具体的にわからないことがたくさんあると感じる。こうしたことをいかに工夫して発信できるかということが求められていると改めて感じる。教員の質の向上という部分についても、急に質を高め、何かできるようになるわけではなく、まわりの教員や子どもから学び、質の向上が図られる部分もある。さらに区立幼稚園も教員研修等による質の向上に目を向けており、私立幼稚園の皆様も力を注がれているところかと思う。東京都のすくわくプログラムや各園での研究といった歩みを進めつつ、日々子どもたちから学び日々の営みに繋げていくことを大切にしたい。また、幼児教育の質を高めていくために研修会の実施やコーディネーターの配置、保幼小連携など区立幼稚園としても取り組んでいる。港区幼児教育振興アクションプランという計画を公私立で協議しながら策定しており、幼児期にふさわしい経験をしていくために取り組

	むことをまとめているが、その中で「幼児の生活に豊かな学びを保障する」という理念を掲げている。準備されたプログラムをこなしていくというわけでなく、すべての子どもの発達をどのように促していくかという視点を大切にしている。中には、家に帰ると家の中でゲームをして閉ざされた環境にいるケースや、学習面の強化を目的とした習い事に行っていることもある。もちろんこうした家庭があってもいいと思うが、幼児期にしか体験できないこと、体験の場をどのように保障していくかをしっかり考えていかなければと考えている。幼稚園のいいところを残しつつ、港区の幼稚園教育として時代に即してしっかりアップデートしていくことが重要と考えている。
Ｂ委員	皆さんの熱い思いをたくさん聞かせていただいた。今日のキーワードは「園庭」「情報発信」「長い歴史」だったかと思う。こうした考えを行政の方や保護者の皆さん、幼稚園の先生方がいる中で共有できたことは、とても意義があったと思う。港区の幼稚園教育として何を大切にするか、発信をしていくかということをたくさん聞くことができた。発信というのはなかなか難しいところもあるが、受け手となる皆さんからのアイデアをいただきながら今後継続して具体的にできたらいいと思う。今後この会議の皆さんで考えながら実現していくことができるのではと考えている。
Ａ委員	とても興味深く、素晴らしい意見がたくさん出たと思う。保育の質とは何か、環境を整えていくことの大切さ、そして何を経験し何を学ぶかということをしっかりと考え、また発信していくことが大事だと思う。個人主義と集団主義という視点に立って考えると、個人主義は子ども一人一人の自発性をどのように引き出すか、集団主義は集団教育をどのように進めるかという両方を大切にしていかなければならない。特に日本は集団主義も大切にしている文化であり、個人主義だけでは成り立たない。豊かな環境の中でいろいろな人と折り合いをつけながら成長し社会への適応力や柔軟性を学んでいく機会を与えていくことが必要。園庭には四季の移ろいがある。そうした自然や友達との関わりから子どもたちが何を経験し何を学ぶか。非認知能力だけでなくどういう力が育つのか、大切なのかということも含めてＰＲしていく必要があるのではと思う。 ３ その他 【事務局より】 〇第 3 回検討会は 5 月下旬～6 月上旬を予定。